

経営比較分析表（令和5年度決算）

富山県富山市 富山市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員 その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	35	対象	ド透I訓ガ	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
406,483	43,430	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
489	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
50	6	545
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
467	-	467

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の両端・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

高度急性期及び急性期医療を担う中核病院として、高度で専門的な医療を提供することに加え、公的病院として、大規模災害時に迅速に傷病者を受け入れるほか、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を受け入れ、良質で適切な医療を提供する役割も担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、医業収支比率及び病床利用率は類似病院の平均値からの乖離幅を縮小し、平均値と概ね同水準となっている。これは、R5年度は「断らない救急」をスローガンに掲げ、新規入院患者の増加に努めた結果である。今後は、救急・紹介患者の積極的な受入を更に推進する等、入院患者数を増やすための取組みを行い、収益増を目指す。

材料費対医業収益比率は、後発医薬品の採用拡大に取り組んでいることや、断らない救急を実施したことによる医療資源の投入が少ない患者の増加などから平均より低い値となるものの、これらの患者は在院日数が長いことなどから、入院・外来の患者1人1日当たりの収益が平均より低い値となった。併せて、職員給与費対医業収益比率も高くなっていることから、収支改善に向けた経営改善が必要となる。

2. 老朽化の状況について

有形資産の減価償却率が類似病院平均値と比べて高く、老朽化が進んでいると言える。

実際に、建設から40年が経過し、施設・設備等の老朽化が著しくなっていることから、患者の利便性向上や老朽化への対応を目的として、これまで病棟改修や外来改修を行ってきた。

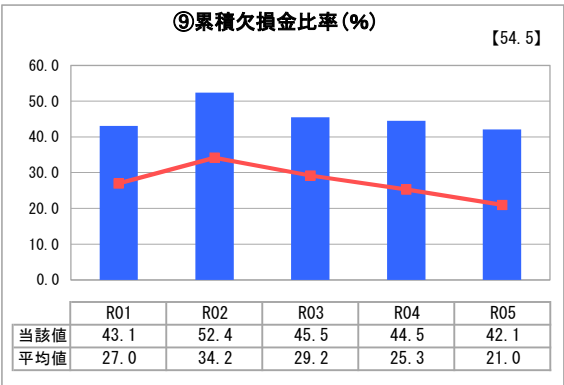
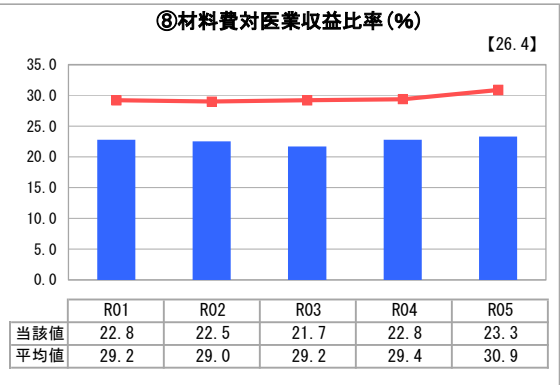
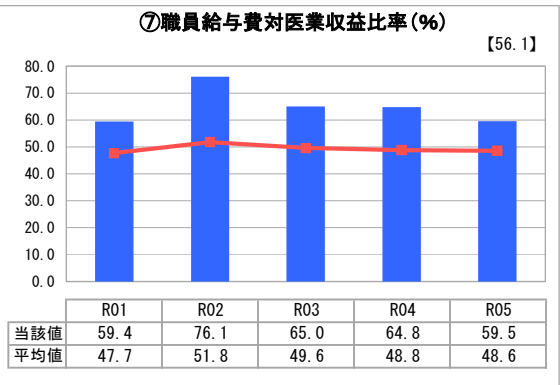
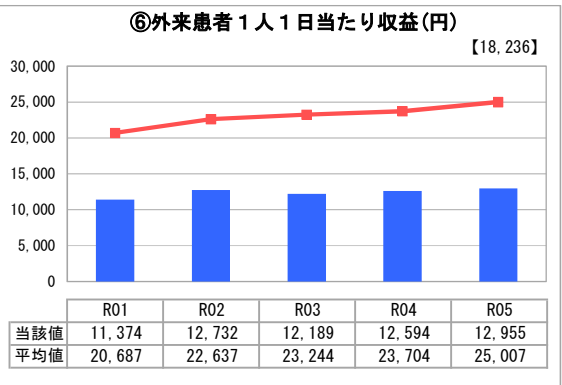
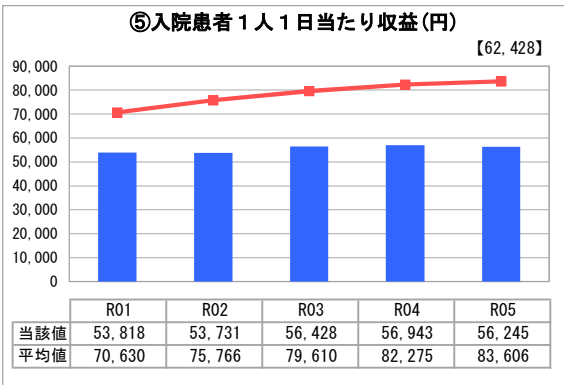
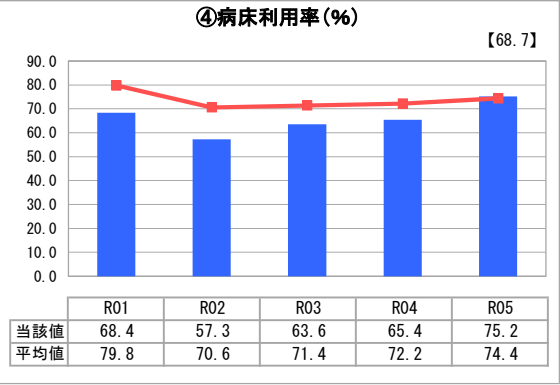
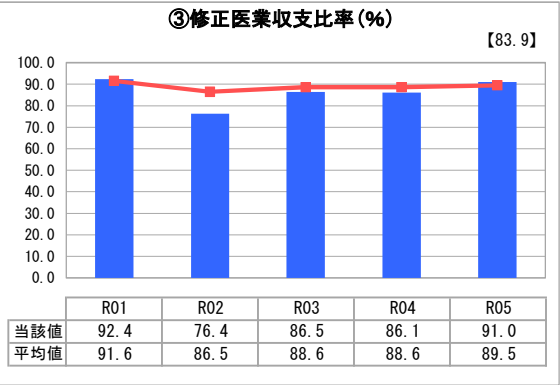
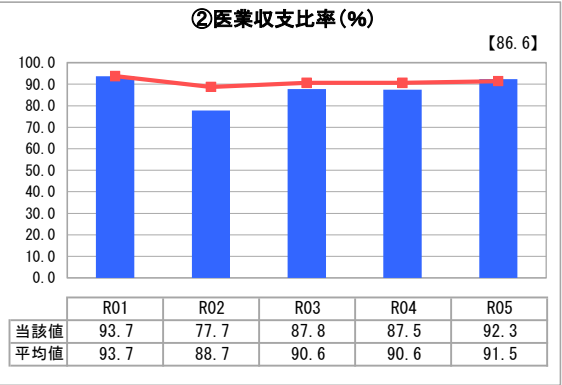
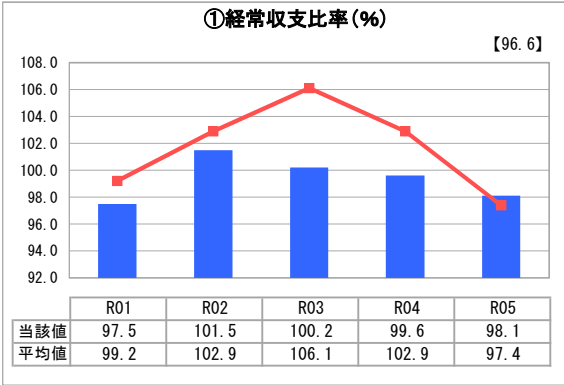
今後も、病院機能を維持・向上させるための改修工事や設備機器の更新等について、病院のビジョンや中長期的な経営状況、費用対効果等を考慮しながら検討していく予定である。

全体総括

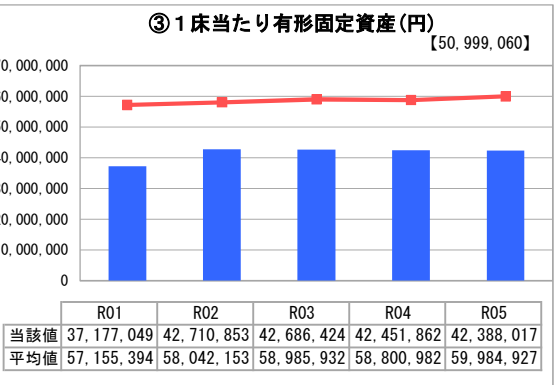
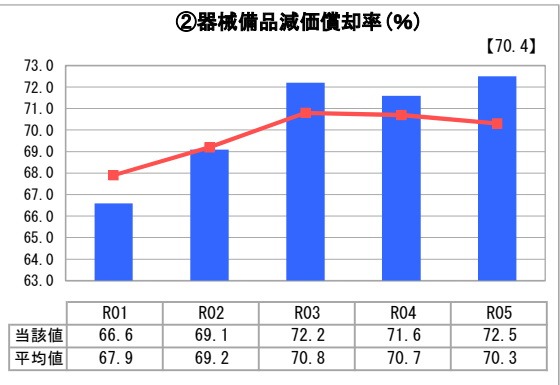
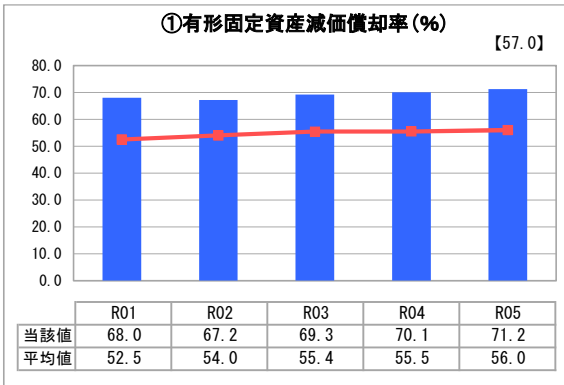
R5年度においては、医業収益がR1年度の水準を超える一方、新型コロナウイルス感染症関連補助金の縮小による医業外収益の減、人件費増や物価高が影響し、決算は264百万円余りの赤字となった。今後は、引き続き新規患者を受け入れて増収につなげることに加え、年々増加し続けている給与費や経費を見直して圧縮するなど、徹底的・抜本的な経営見直しを図る必要がある。

また、市民に「選ばれる病院」として、ソフト面からも当院の魅力を高めていく必要がある。また、富山医療圏における急性期病院として、医療体制のさらなる強化を図り、質の高い医療の提供に努めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。